2017年度（平成29年度）研究推進計画

学校教育目標　「心身豊かに学び合う子どもの育成
つよく　ゆたかに　伸びゆく子
～かしこく　やさしく　たくましく～」

めざす児童像　姿勢良く話を聴き、考えを短文で表現できる子
学習・生活習慣が身につき、自分と他者を愛する子
外で元気よく安全に遊び、自分の生活を改善する子

研究テーマ　「伝え合い　ひびき合う学びをめざして
～交流の場での山場づくり～」

育成する力　コミュニケーション力
○聴く力　○話す力　○話すための書く力

授業研究でめざす児童の姿
☆内容を関連づける連続性のある伝え合い=価値ある交流をもとに、
自分の考えを深めたり広げたりする
○聴く・友達の言いたいことを分かろうとして聴く
・自分の考えと比べながら聴く
○話す・自分の考えを持ち、相手に分かりやすく話す
・友達の意見に対して、自分の考えを話す
○話すための書く力
・自分の考えが明確になるように、文章の組み立てを考える
・目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすく書く

Ⅰ　学校教育目標、めざす児童像について

学校長からの提案どおり

Ⅱ　研究テーマについて

【昨年度の研究をふり返って】

1）児童の実態

○めあてを意識したり、交流の場で相手に伝えようとしたりする姿勢は見られた。
○聞く力（全員の話を聞こうとする姿勢、相手意識をもって聞く型）は高まった。
○書く活動が設定されたため、自ら考えようとする児童の姿は見られた。
△聴く力（話し手の意図や内容を理解して聴く、自分の考えと比べて聴く、自分の考えに反映させようとして聴く）はまだ高まっていない。
△内容を分かりやすく伝えたり、友達の意見に対する質問や感想を話したりすることはできていない。
△話すための書く力は高まっていない。

2）成果

一人一授業・校内授業研究

○どの教師も阿部先生から授業に対するアドバイスを受けられたのがよかった。
○学年全体の様子をつかんだり、単元の流れを感じたりしながら参観できた。
○自分の授業改善につながった。
・手だて　・教室環境　・ワークシート　・発問　・ふり返り　・交流の仕組み方　など
○単元づくりができるようになった。
○話し合いを通してさらに児童の意見を深めるという活動は設定できた。

単元構想検討会

○研究の重点的課題「単元設計の共通理解」「個々の授業力アップ」につながる研修となった。
○２学期以降の教材研究にもつながった。

○他の教師の単元構想を知ることができ、単元の作り方を学ぶことができた。

ミニ講座

○短時間で自由参加なので、参加しやすい。　○今実際に困っていることを学ぶことができる。

○明日からやってみようと思える実践を教えてもらえた。

○普段のちょっとした疑問にこたえてもらえる内容だった。

3）問題

△発問によって授業の大部分が変わる。児童は教師の発問に一生懸命答えようとしている。だからこそ、しっかりと発問を考えて授業に臨まなくてはいけない。

△ふり返りがあまりできていない。

△発言時に丁寧語を使う指導や、グループ交流での役割分担（司会、記録、報告、タイムキーパー）の必要性を感じた。

△ただ意見を言い合うだけの交流では、児童の考えはなかなか深まらない。新たな気づきや深い学びにつながるように、教師がいかに交流をコーディネートするか、がカギ。

△話し合いがうまくまとまらないのは、話し合いの観点が明確ではないからではないか。

△友達の意見に対して質問や感想などが言えたら、もっとよい話し合いになるのではないか。

→ 発問、ふり返り、交流について問題がある。その中でも、交流の場についての問題が多い。

4）改善策

１☆サブテーマを「交流の場での山場づくり」とし、交流の場を活性化するための手立てを追究する。

２☆単元構想の「スリム化」「焦点化」をめざして、教材研究に取り組む。

３☆ふり返りの意義や設定の仕方を提示する。

Ⅲ　研究内容

１☆サブテーマを「交流の場での山場づくり」とし、交流の場を活性化するための手立てを追究する

【方法】

1）単元チェックシートの□交流の場（ペア、グループ、全体など）の設定や工夫に重点におき、日々の授業に取り組む。

交流の設定の仕方　～交流の場を活性化するために～

・交流課題の吟味　・ホワイトボードなどツールの活用

・ペア→班→全体、全体→班→全体、など学びに効果的な場の展開

教師の山場づくり　～子どもの思考を深めるために～

・子どもの発言の焦点化→子どもの発言をどうつなぎ、どう比べ、何を取り上げるか。

・子どもの発言の評価→授業の中でどう位置づけるか。

2）１、２学期の校内授業研究会で、交流の場の設定や工夫を中心に、授業公開と事後研究会を行う。

授業を見る視点

・交流の場の設定は、学びを深めるのに効果的なタイミングだったか

・交流課題は、めあてにせまる内容であったか

・交流の中で価値づけた子どもの発言は、全体で話し合うべき内容であったか

・学びを深めるために、交流の場で設定すべきだった課題は何か　　など

２☆単元構想の「スリム化」「焦点化」をめざして、教材研究に取り組む

【方法】

１）研究全体研修会で共通理解を図る

単元目標（めあて）設定【目的】①

・単元の工夫（ゴールを目指すことに意欲を持たせる）③

・学習計画を立てる（見通しを持たせる）④

↓

１時の活動・目標（めあて）

２時の活動・目標（めあて）

３時

４時

学習のゴール（言語活動）を決める【手段】②

○単元設定は①～④の順で考えていく。

○①～④のつじつまがあっているかが重要。

単元づくりチェックポイント

□単元目標とゴールから考えて、教材文を吟味しているか。

□学習のゴールで単元目標が達成できる「単元構想」になっているか。

例）ゴールを「リーフレットづくり」とした場合、単元目標によってリーフレットの内容が変わってくる。

□各時間の活動が、常にゴールを目ざした内容になっているか。

例）ゴールを「図鑑づくり」とした場合、各自の活動が図鑑づくりにつながるもの・目指すものになっている。

□各時間の学習のめあてが児童に分かるように示され、共有できているか。

□児童が学習の見通しをもてる工夫をしているか。

□交流の場（ペア、グループ、全体など）が設定、工夫されているか。

・交流の場の設定は、学びを深めるのに効果的なタイミングだったか。

・交流課題は、めあてにせまる内容であったか

・交流の中で価値づけた子どもの発言は、全体で話し合うべき内容であったか

・学びを深めるために、交流の場で設定すべきだった課題は何か　　など

□めあてにかえるふり返りの時間が設定されているか。

（参考文献）「明日からできる活用力育成　言葉を鍛えて学力向上」阿部秀高

２）夏季研修の設定

単元構想に関わる夏季研修を実施する。単元構想は学年（プレイ室、専科）で研究し、全学年全プレイ室全専科がその案を作成する。単元構想の書き方は、指導案の中の単元構想のとおりとする。市内発表で授業公開する学年（プレイ室、専科）はその教材で、単元構想を練る。市内発表に関わる案は紙面と口頭で発表、それ以外の案は紙面発表とする。その内容について阿部先生からご指導いただく。

３☆→「ふり返り」の意義や設定の仕方を提示する

【方法】研究全体研修会で共通理解を図る

１）ふり返りの意義とは

①子ども自身が

〇授業を通して学びが深まったことを実感できる。

〇めあての達成度を確認できる。

〇ゴールへの学びの過程を確認できる。

②教師自身が

〇子どもたちの学力がめあてに向かって向上しているかを確認できる。

〇ふり返りに書かれた学び違いや疑問を、次時のはじめに提示し解決することができる。

〇子どもたちに確かな思考力や表現力を定着させることができる。

２）ふり返りの設定の仕方

①一時間の授業の中で

□めあてにつながる発言を評価・価値づけする

□ふり返りを書く時間を設定する

「今日のめあてが達成できたかどうかについてふり返りを書きましょう。なぜ達成できたか、理由も書きましょう。」

□ふり返りの型を示す

例）・めあてが達成できたかどうかについて書く。

・達成できた内容（考え）について詳しく書く。

『～が分かった。』『～ができるようになった。』

・達成できた理由や根拠を書く。

『教科書の～という部分から‥‥ということが分かった。』

『〇〇さんの考えを聴いて、自分の考えが‥‥‥に変わった。』

②単元の中で

□単元を通して分かったことや考えたことを「めあてのまとめ」としてノートにまとめる。

□単元のめあてに返るレポートを作成する。

③ふり返りがしやすいように

□学びの流れが分かりやすい板書をする

□これまでの学習の過程が分かる掲示をする

４☆→ミニ講座の時期と回数を検討する

＊時期と回数については研究推進だよりで連絡する。

・若い教師のための研修会を企画、開催する。

・30 分間の自由参加形式。

・ミニ講座で使われた資料は、Z ドライブ→100 校務分掌→101 研究推進→2016 ミニ講座→資料のフォルダで保存する。

５☆→学級づくり研修会を実施する

・支持的風土のある学級づくりの方法を探る。提案は、人権同和担当とする。

Ⅳ　市内発表について

〇授業公開

・全学年１クラスとプレイ室１クラスを授業公開する。

・教科は国語とする。

・コミュニケーション力「〇聴く力〇話す力〇話すために書く力」の基礎基本を育成する手立てを研究するとともに、交流の場（ペア、グループ、全体など）での山場づくりを追究する。

〇分科会

・低、中、高学団とプレイ室で行う。

・分科会においては、どの学年も阿部先生以外の先生に講評をお願いする。

〇全体会

・講師は阿部先生。